大仙市立太田中学校　学校だより　　平成２７年６月１１日

太中 Colours！！　～171の輝きでつくる感動色～

ご意見・ご感想はこちらまで　ot-otatyu@edu.city.daisen.akita.jp　　Ｎｏ．４５

The　Ambitious　Projecut　（アンプロ）

今週から生徒会執行部が中心となり、「The　Ambitious　Projecut」（略してアンプロ）を行っています。これは、総体に向けた部活動への取り組みを通して、学校が一丸となり、集中して練習に励み、よい雰囲気をつくっていくことを目的に行っているものです。

帰りの学活終了後、１０分以内に集合し、体育館では部活動ごとに整列します。そして、各部のキャプテンから総体に向けて意気込みを発表したり、生徒会執行部の呼びかけに応じて「声」を出し、それぞれの活動に移ります。ところが・・・各部ごとに「声」を出す場面で、何回もやり直しをさせられている部活もあります。アンプロで最も大切にしているのは「声」です。

技術は有限　　声は無限

どんなスポーツでも技術は有限です。例えば、中学生にプロ野球選手のようなプレーをしろといっても無理です。しかし、「声」は無限に高めることができます。

「声」にも種類があります。「がんばれ　ドンマイ　ファイト」のような「声」では、試合は変わりません。一番苦しいときに出せる「声」こそがチームを活性化します。例えば、野球で「しっかり打て」よりも「あのピッチャーは、カーブが得意で、勝負球ではカーブを投げてくるから、それを狙って打て」と言われた方が状況判断が良くなります。そうやって考えながら「声」を出していくと、「声」の質はどんどん高まっていきます。また、苦しいときに、お互いに「声」をかけ合うことで、苦しい場面を乗り切ることができるのです。人間の視野は１８０度しかありません。しかし、後ろにいる仲間が「声」をかけてくれれば、視野は３６０度になります。仲間の声を信じてプレーをすれば、自分の力以上のものを発揮することができるのです。“後ろからの声は神の声”とも言います。仲間の「声」を信じてプレーすることは、とても大切なことなのです。

どのスポーツでも「声」を出すことの重要性はわかっていると思います。昔、人間は狩りをしながら生活をしていました。自分が生きるために獲物を捕まえる・・・一歩間違えれば自分の命も危ない死闘です。そんなときに、人間はどんな声を出すと思いますか？それは“雄叫び”です。“雄叫び”によって、自分の闘志を呼び起こすのです。個人競技ならば黙々と闘う選手もいます。しかし、野球やバレーボールのようなチームスポーツでは自分の「声」が仲間の闘志をも呼び起こすのです。だから、練習中や試合中の「声」は絶対に必要なのです。練習で出せない「声」は、試合では出せません。「声」は相手に届かなければ意味がありません。相手に届くように全力で「声」を出すのです。

普段からやっていないことは試合では絶対にできないのです。試合のスタートから全力を出すためには、練習のスタートから全力を出す習慣をつけておなければなりません。さらに、グラウンドやコートにいる全員が調子がいいというときはほとんどありません。総体では、試合の流れの中でうまく行かないことが度々起こるのです。それを切るのが自分の強い気持ちであり、仲間のためを思うチーム全体の気持ちです。弱い気持ちでは、弱い「声」しか出ません。強い気持ちから強い「声」が出るのです。仲間に頼るのではなく、自分がやるという気持ちを全員がもつ・・・高いレベルでのチームワークをもったチームを目指すのです。一人一人が練習の最初から全力を尽くすのです。

こうして考えてみると、生徒会執行部が行っているアンプロは、総体で各部が力を発揮するためにとても大切な取り組みなのです。さぁ、今日も一人一人が全力で「声」を出して、練習に臨もう。

才能は有限　　努力は無限

みんなの無限の努力が、さらなる可能性を開くのです。